SNSの世界で発見、“共感”の渦

MEMO★RANDOM

じんぼう・みか
法政大学卒業後、文具メーカー勤務を経て業界誌記者となり、1993年独立。
取材記事、コラムなど連載。近著「パチンコ年代記」（バジリコ、07年）

以前ここでも紹介させて頂きましたが、今年のはじめ頃から「ぱちんこかるちゃー倶楽部」というパチンコサイトを始めました。同時にSNS（ツイッター）でも更新案内などを掲載したり、今時ならではの発信を色々と模索することも開始しました。

しかし、既にパチンコパチスロ関連では専門サイトやホール・メーカーアカウント、演者やYouTuberなど数え切れないぐらいの情報が溢れており、そう易々とはフォロワーが増えないのが現実。そうかといって、管理している側としてはフォロワーが多いところに乗っかり中身の薄いつぶやきを乱造するというのも控えたいところ。

そんなジレンマに陥りつつ、フォローしていた昭和がテーマのつぶやきを読んでいた時のことです。そのアカウントはほとんど写真がなく文字だけで昭和時代の芸能人や事件、文化、仕事などについて毎日書いているだけなのですが、フォロワーが多いし共感を表す「いいね」も非常に沢山つくのです。読んでいる側としても「こういう人、いたいた」とか「こんな事件、あったあった」などいちいち共感するところが多く、楽しみになっているのだと気付きました。

……これだ！これをパチンコやパチスロに当てはめてやってみたらどうだろう？と思い付き、自分自身の経験からよく見聞きしたことをまとめてみました。例えば……「昔の台には灰皿が付いていて、店員が移動しながら吸い殻をハケで掃除していた。のち、専用の掃除機も登場した」「昔の新装開店は、人々が無秩序に入り乱れ扉が開くと同時になだれ込んだ。多少のトラブルやケガは問題にならなかった」といった、パチンコ好きならば誰もが経験したであろうことを、令和の時代になるべく写真付きで連日つぶやいてみたのです。

最初は、更新情報が途切れがちになったすき間に差し込むような形で掲載してみたところ、一気に「いいね」が100を越える勢いでつき、フォロワーも10日経たないうちに倍増しました。まぁ、元々少ないのでまだ大した数字ではないのですが、無名のパチンコサイトとしては関心を持ってもらうということがまず大切ですから、ネタ出しが大変なものの一つの作戦として、しばらく続けていきたいと思っています。

またSNSを始めて以降、よく「マウント」という言葉で揶揄されるように、いかに自分の方が優れているか、物を知っているか、稼いでいるか……など、非常にくだらない事柄において自慢をする人々がうようよしていることにも気付きました。そうした内容には嫌悪感しかありませんので、あくまでも「共感」を得るために同等の立場、つまり「パチンコ仲間」の感覚でつぶやくことも心がけなければならないな、と考えるようにもなりました。例えば懐かしい製品を取り上げる場合でも「こんな製品がありましたよね」と語れば共感が得られやすいと思いますが、「こんな製品があったんだよ、知ってた？」という上から目線では台無しです（そういうキャラ作りをしていれば別ですが）。

と、まぁこんな風にSNS一つ取っても非常に苦労が多い現代。正直、面倒だなと思うこともしばしばですが、一方で勉強になることも多いと感じています。ネットやSNSがいかに発達しようとも、その先にいるのは必ず人間なのですから、まずは共感を集めながら楽しく読んでもらえるものを目指して行かなければならないな、と思っています。

◀最も人気を集めた灰皿掃除のつぶやき